

# 環境経営レポート



# R.E.HAYASHI

株式会社アール・イー・ハヤシ

対象期間：2021年09月～2022年08月(2022年度)

対象範囲：全組織・全活動

発行日：2022年11月1日(火)

目次	
ご挨拶	-03
環境経営理念	-03
環境経営方針	-04
1.組織の概要	-05
事業者名及び代表者名	
所在地	
環境管理責任者氏名及び担当者連絡先	
事業所の規模	
組織の体制の役割・責任・権限	-06
許可・登録の内容	-07
産業廃棄物処分業許可取得状況	
産業廃棄物収集運搬業取得状況	
特別管理産業廃棄物収集運搬業許可取得状況	
一般廃棄物収集運搬許可取得状況	-08
施設等の状況	-08
収集運搬業	
運搬車両の種類と台数(収集運搬業許可 登録車輛)	
積替え保管施設の面積・保管上限	-09
中間処理業	-10
中間処理施設の種類	
処理する廃棄物の種類	
処理能力(規模)	
処理方法	
処理工程図	-11
受託した産業廃棄物の処理量	
2.環境経営目標と実績および取組結果の評価	-12
実績および運用に対する目標	
環境経営計画及び取組表	
環境経営計画・取組結果と評価	-13
運用評価	-15
3. 環境関連法規等の遵守状況の評価結果の確認及び	-17
評価の結果並びに違反、起訴等の有無	-17
4. 代表者による全体評価と見直し	-18

ご挨拶

当社アール・イー・ハヤシは、循環型社会形成に向けた[5R]活動を行うにあたって、環境保全活動に取り組んで参ります。その行動方針としてこの環境経営方針を定め、環境に対して著しい影響を与えないよう環境保全の推進及び継続的改善と共に、お客様満足の一層の追及を推進し実行致します。また、苦情・相談等の各種お問い合わせに誠意を持って対応します。

#### 「環境経営理念」

《限りある資源を大切に》これが私たちの理念です。アール・イー・ハヤシは、地域・社会の発展、環境の保全に貢献し、廃棄物の再資源化に努め、資源循環型社会の実現に向けて貢献します。常に自然環境への配慮、自然社会の一員としてCO2削減に努めます。

- 1.環境関連法規等を遵守し、環境保全活動に積極的に取り組みます。
- 2.温暖化防止の為に、節電を励行しエコドライブやその他によるCO2削減に努めます。
- 3.節水に取り組みます。
- 4.選別強化により、廃棄物量を削減及びリサイクル率の向上に努めます。
- 5.環境に配慮した物品の購入を推進します。
- 6.環境教育及び訓練の実施を行うことで、全員に環境方針を周知し意識の向上を図ります。

制定日：2020/09/01

株式会社アール・イー・ハヤシ

代表取締役 安田 真之

確認日：2023年9月1日



# 環境経営方針

## [ 企業理念 ]

《限りある資源を大切に》これが私たちの理念です。アール・イー・ハヤシは、地域・社会の発展、環境の保全に貢献し、廃棄物の再資源化に努め、資源循環型社会の実現に向けて貢献します。常に自然環境への配慮、自然社会の一員としてCO2削減に努めます。

## [ 環境経営の指針 ]

当社アール・イー・ハヤシは、循環型社会形成に向けた[5R]活動を行うにあたって、環境保全活動に取り組んで参ります。その行動方針としてこの環境経営方針を定め、環境に対して著しい影響を与えないよう環境保全の推進及び継続的改善と共に、お客様満足の一層の追及を推進し実行致します。また、苦情・相談等の各種お問い合わせに誠意を持って対応します。

## [ 環境経営への取組の基本的方向 ]

### 1. 二酸化炭素排出量の削減

- ① 生産設備及び照明設備の省エネ化により電気使用量の削減に努めます。
- ② エコドライブの徹底により車輛等の燃料使用量削減に努めます。
- ③ その他化石燃料使用量削減に努めます。

### 2. 廃棄物排出量の削減

- ① 事業所から発生する一般廃棄物の削減に努めます。
- ② 選別強化により廃産業廃棄物の発生を抑制すると共に適正処理を行います。
- ③ 資源の有効利用とリサイクルを推進します。

### 3. 水使用量の削減

- ① 事業所内の水使用量の削減に努めます。

### 4. 条約・法令の遵守

- ① 環境関連法規等を遵守し、環境保全活動に積極的に取り組みます。

### 5. 自らが提供するサービスの改善

- ①環境教育を行うことで、全員に環境方針を周知し意識の向上を図ります。

この環境経営方針は、全従業員に周知すると共に、一般にも公開します。

制定:2020年9月1日

株式会社アール・イー・ハヤシ  
代表取締役 安田 真之

## 1.組織の概要

### 1-1.事業者名及び代表者名

株式会社アール・イー・ハヤシ

代表取締役 安田 真之

### 1-2.所在地

本社 : 東京都品川区東品川 1-14-5

リサイクルセンター : 東京都大田区東糀谷 1-7-1

法人設立 : 昭和 61 年 12 月 1 日

資本金 : 3,000 万円

売上高 : 98578 万円(2021 年 9 月～2022 年 8 月)

従業員数 : 33 人(2022 年 08 月現在)

事業内容 : 産業廃棄物の収集運搬業・中間処理、  
一般廃棄物収集運搬業  
各種古物の回収・販売業

### 1-3.環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

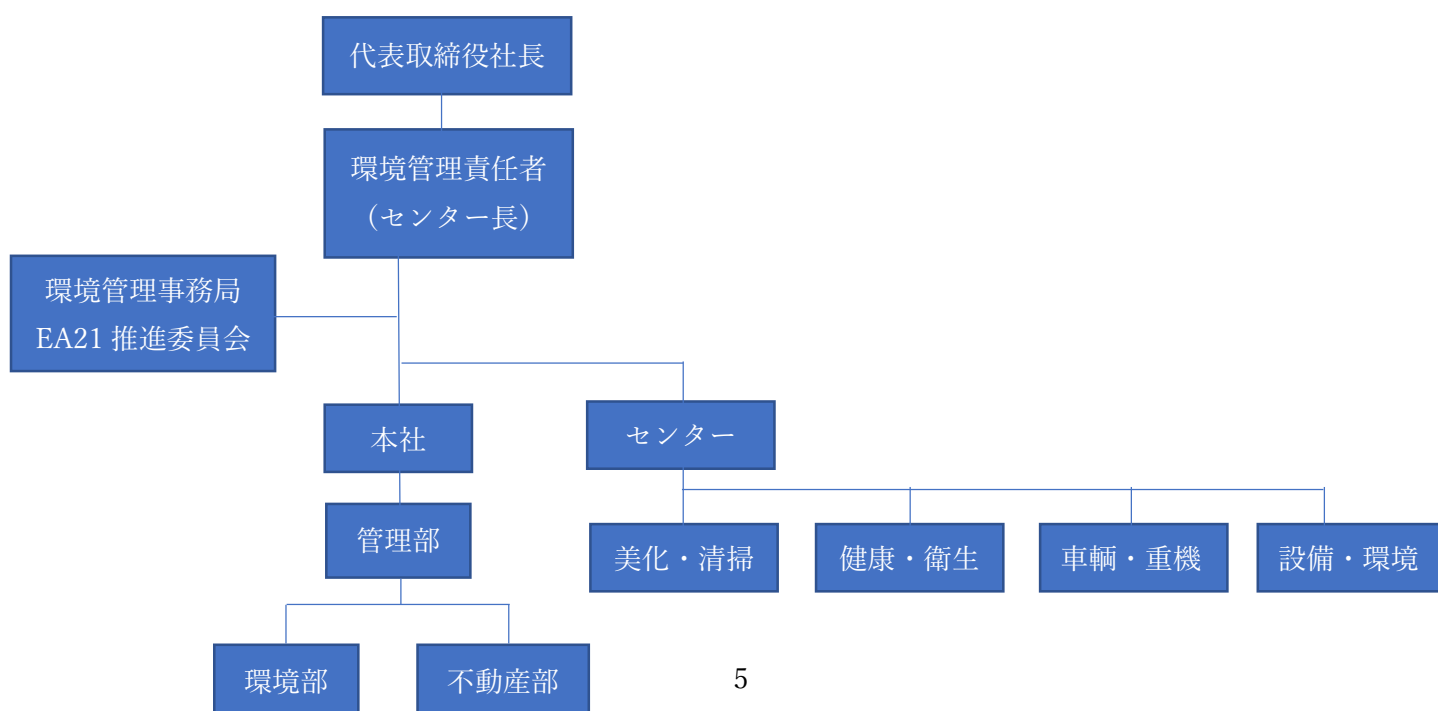
環境管理責任者 : 沼下 良則

問い合わせ先 : 03-3743-9888

環境管理者(本社) : 中村 直人

問い合わせ先 : 03-3472-3054

### 1-4.事業所の規模(環境管理実施体制図)



組織の体制の役割・責任・権限

名称	役割・責任・権限
社長	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境経営に関する統括責任</li> <li>●環境管理責任者を任命</li> <li>●経営における課題とチャンスを確認にする。(要求事項 2)</li> <li>●環境方針を定め、誓約する。(要求事項 3)</li> <li>●環境経営を実践する為の必要十分な実施体制の構築 (要求事項 7)</li> <li>●実施体制において各自の役割、責任、権限を定め、従業員に周知する (要求事項 7)</li> <li>●実施及び管理に必要な経営資源 (人、もの、資金、情報等) を用意する (要求事項 7)</li> <li>●代表者による全体の評価と見直し実施 (要求事項 14)</li> </ul>
環境管理責任者(センター長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境管理システムを構築、実施、管理</li> <li>●環境への負荷及び取組の自己チェックの確認、承認</li> <li>●法規制等の遵守状況をチェック</li> <li>●環境方針の案作成及び環境目標の設定</li> <li>●環境活動実施計画および実績の確認・集計・評価</li> <li>●問題点の是正、予防処置に対する指示と改善や見直しに必要な処置</li> <li>●環境活動の取組結果の代表者への報告</li> <li>●環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> </ul>
環境管理事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境経営システム運営のすべての事務</li> <li>●環境への負荷及び取組の自己チェックを作成し、環境管理責任者へ報告</li> <li>●「環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況チェックリスト」を作成し、管理責任者へ報告</li> <li>●環境活動計画並びに運用手順書を作成し、実施達成状況を集計し、環境管理責任者へ報告</li> <li>●文書及び記録の管理保管</li> <li>●従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>●特定された緊急事態に対する項目の手順書作成、テスト・訓練・記録</li> <li>●環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚</li> </ul>
(本社)管理部/ (センター)部門長	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自部門における環境管理システムの実施</li> <li>●自部門の従業員に対する環境訓練の実施</li> <li>●自部門に関連する環境目標および環境活動計画の実施、達成状況の報告</li> <li>●自部門に必要な環境関連手順書の作成、運用管理</li> <li>●自部門に必要な緊急事態への対応のための手順書作成、テスト、訓練、記録</li> <li>●自部門の問題点の発見、是正、予防措置</li> </ul>
(本社)従業員/ (センター)部員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 (要求事項 3,6)</li> <li>●決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

1-5.許可・登録の内容

産業廃棄物処分業許可取得状況

産業廃棄物収集運搬業許可取得状況

特別管理産業廃棄物収集運搬業許可取得状況

都道府県名	許可番号	許可年月日	有効年月日
東京都(処分業)	01320016683	H30.12.18	R05.12.17
茨城県	00800016683	R02.10.21	R07.08.16
栃木県	00900016683	R02.08.01	R07.07.31
群馬県	01000016683	R02.09.29	R07.09.28
埼玉県	01101016683	R01.05.24	R06.05.08
千葉県	01200016683	R01.06.20	R06.06.19
東京都	01310016683	H30.12.18	R05.12.17
神奈川県	01402016683	R02.09.21	R07.09.28
山梨県	01900016683	H30.02.20	R05.02.19
静岡県	02201016683	R02.09.14	R07.09.13
愛知県	02300016683	R03.03.24	R08.03.14
京都府	02600016683	R02.11.16	R07.11.04
大阪府	02700016683	R03.04.11	R08.04.10
千葉県(特管)	01250016683	R01.06.03	R06.04.29
東京都(特管)	01357016683	R01.06.03	R06.04.29
神奈川県(特管)	01452016683	R01.05.27	R06.04.15

一般廃棄物収集運搬許可取得状況

市区町村	許可番号	許可年月日	有効年月日
品川区	778	R03.06.01	R05.05.31
杉並区	778	R03.06.01	R05.05.31
千代田区	778	R03.06.01	R05.05.31
大田区	778	R03.06.01	R05.05.31
渋谷区	778	R03.06.01	R05.05.31
江東区	778	R03.06.01	R05.05.31

1-6.施設等の状況

1-6-1.収集運搬業

1-6-1-1.運搬車両の種類と台数

収集運搬業許可 登録車輛 計 24 台(内 1 台は一廃) 2022/07 月時点

車輛名	台数
・4 t 平ボディ	6 台
・4 t 平ボディ パワーゲート	4 台
・4 t 平ボディ クレーン	1 台
・2 t 平ボディ	3 台
・2 t 平ボディ パワーゲート	4 台
・4 t パッカー車 (産廃)	1 台
・4 t パッカー車 (一廃)	1 台
・4 t アームロール車	1 台
・中型アームロール車	1 台
・1 t 車	1 台
・2 t 箱ゲート	1 台

平成 27 年度燃費基準達成車および基準 5%及び 10%向上達成車 8 台(全体の 30%)

低騒音型建設機械 3 台(重機全体の 100%)

※今後の買換え、増車時には平成 27 年度燃費基準達成車を導入。



1-6-1-2.積替え保管施設の面積・保管上限

積替え保管施設[東京都大田区東糀谷 1-7-1](保管面積：832.85m<sup>2</sup> 最大保管高さ 1.5m)

名称	保管量	保管容器	備考
廃プラスチック・金属くず・ガラス・コンクリート陶磁器くず	0.78m <sup>3</sup>	ドラム缶 2 個	廃蛍光灯 [水銀使用製品産業廃棄物に限る]
汚泥・金属くず	0.02 m <sup>3</sup>	ペール缶 1 個	廃乾電池 [水銀使用製品産業廃棄物に限る]
汚泥・金属くず	0.02 m <sup>3</sup>	ペール缶 1 個	廃乾電池 [水銀使用製品産業廃棄物を除く]に限る

1-6-2.中間処理業

1-6-2-1.中間処理施設の種類

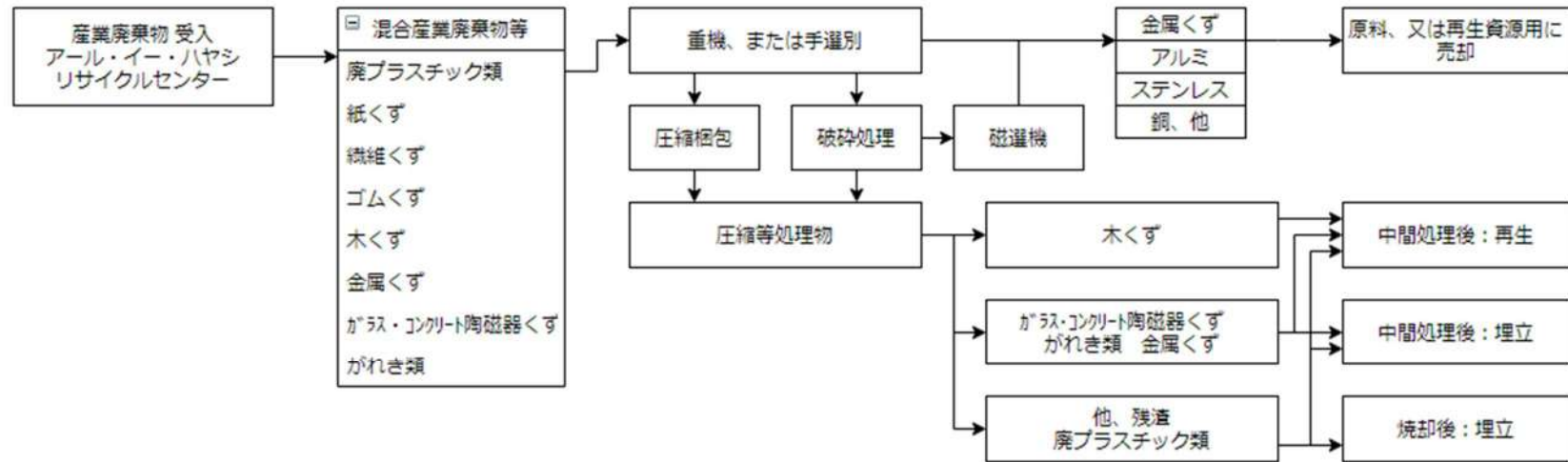
1-6-2-2.処理する廃棄物の種類

1-6-2-3.処理能力(規模)

1-6-2-4.処理方法

破砕施設	産業廃棄物の種類	単独処理能力	混合処理能力	設置年月日	処理方法	構造及び設備の概要	許可証
破砕施設	廃プラスチック類	4.50(t/日)	29.70(t/日)	平成 10 年 11 月 23 日	三軸スクユ-対向式 破砕機	*粉じんの処理方法 →破砕機投入口部に散水装置を設置し、粉じんの飛散を防止している。  *騒音防止方法 →破砕機周りに防音シートを設置し騒音の拡大を防止している。	産施 51009 号
	紙くず	12.20(t/日)					
	繊維くず	30.40(t/日)					
	ゴムくず						
	木くず	30.40(t/日)					
	金属くず	33.40(t/日)					
	ガラス・コンクリート 陶磁器くず	22.70(t/日)					
がれき類	27.30(t/日)						
圧縮梱包施設	廃プラスチック類	20.56(t/日)	—	平成 24 年 7 月 2 日	半自動圧縮梱包機	*振動防止方法 →底面にアンカーボルトで堅固に設置する。 床面は全面コンクリート敷き。 車輛および重機は低速で走行し過負荷運転を禁止する。	
	紙くず	17.60(t/日)					
	繊維くず	18.08(t/日)					
	金属くず	66.00(t/日)					

1-6-2-5.処理工程図



1-6-3.受託した産業廃棄物の処理量(2021年4月~2022年03月)

収集運搬量：5067 t

中間処理量：5153 t

最終処分量：0t

## 2.環境経営目標と実績および取組結果の評価

### 2-1. 2020 年度実績及び 2021 年度運用に対する目標(中長期の環境経営目標)

		2019 年 基準年度	中期目標 ※(総合計値÷年間売上) ※電力・軽油以外は年間合計値	
		実績	2021 年度	
電力の 使用量削減	売上による使用量 (kWh/売上:百万円)	—	1.0%削減	
		97.1	96.1	
軽油等の 使用量削減	売上による使用量 (ℓ/売上:百万円)	—	1.0%削減	
		168.1	166.4	
廃棄物 リサイクル率	年間リサイクル率(%)	—	0.2%増加	
		86.43%	86.63%	
総排水量 削減	売上による使用量	—	1.0%削減	
		529.2	523.9	
二酸化炭素 排出量総量	CO2 排出量 (kg-CO2)	—	1.0%削減	
		245517.6	243062.4	

※電気由来の CO2 排出量：236548.6 kg

※化石燃料由来の CO2 排出量：2065060.4 kg

※中期目標の数値について、廃棄物リサイクル率の項目以外は基準年度実績値×当該年度目標削減率の計算結果を四捨五入した数値を記入

※2019 年度の排出係数(調整後)を使用 電気使用量 東京電力 0.462kg-CO2/kWh

【開始年】

日本テクノ 0.411kg-CO2/kWh

東京 GAS 0.398kg-CO2/kWh

### 2-2.環境経営計画及び取組表

環境経営計画		実施項目
二酸化炭素排出 量の削減	電力使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空調機のフィルター清掃</li> <li>・エアコン温度の管理</li> <li>・待機電力を出来る限り減らす</li> <li>・照明機器の適切な点灯</li> <li>・動力の過負荷運転を減らす</li> </ul>
	ガソリンの使用量削減 軽油の使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間停車時アイドリングストップ実施</li> <li>・運行前点検等の車両整備の徹底</li> <li>・エコドライブの推進</li> <li>・積載物の適正荷重を徹底</li> <li>・最新低公害、低燃費車両への代替を進める</li> <li>・タコメータによる運行状況の把握</li> </ul>
	灯油使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩所新設及びエアコン設置</li> </ul>
廃棄物排出量の 削減	消耗品等の廃棄抑制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源ごみ分別の徹底</li> <li>・ゴム手袋等を洗濯し再利用</li> <li>・再使用、再利用の促進</li> <li>・使用方法や破棄時の状態を確認</li> <li>・電子データ化</li> </ul>
	廃棄物の適正処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選別作業の徹底</li> <li>・有価売却の促進</li> <li>・5 R の推進、リサイクル率アップ</li> </ul>
総排水量の削減	水道使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節水表示、こまめな節水</li> <li>・洗車時の適正水量</li> <li>・破碎作業時の適正水量</li> </ul>
環境配慮	購入品について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・極力、エコマーク製品、グリーンマーク製品、カーボンオフセットの優先購入。</li> <li>・省エネ型製品を優先購入する。</li> </ul>

2-3.環境経営計画・取組結果と評価

目標値に対するの運用期間の実績		実績年度	09月	10月	11月	12月	翌01月	翌02月
電力使用量の削減	売上による使用量(kWh/売上:百万円)	2020	39.04	36.67	30.10	42.40	54.99	34.06
		2021	66.84	37.71	40.69	28.37	49.59	33.56
		前年度比較	71.21%増加	2.83%増加	35.18%増加	33.08%減少	9.81%減少	1.47%減少
電気使用量削減(高圧)	売上による使用量(kWh/売上:百万円)	2020	47.56	54.12	39.00	46.88	52.50	38.07
		2021	59.38	54.03	58.16	49.57	59.49	34.46
		前年度比較	24.85%増加	0.16%減少	49.12%増加	5.73%増加	13.31%増加	10.47%減少
軽油使用量削減	売上による使用量(ℓ/売上:百万円)	2020	123.75	148.30	99.33	116.94	111.48	92.61
		2021	152.52	148.44	164.74	123.70	124.54	87.08
		前年度比較	23.25%増	0.09%増加	65.85%増加	5.78%増加	11.71%増加	5.97%減
ガソリン使用率削減	売上による使用量(ℓ/売上:百万円)	2020	13.48	8.39	5.49	6.95	3.85	5.30
		2021	9.64	9.88	10.56	7.94	7.17	3.55
		前年度比較	28.49%減少	17.75%増加	92.34%増加	14.24%増加	86.23%増加	33.01%減少
リサイクル率	年間リサイクル率(%)	2020	次ページに記載					
		2021						
		前年度比較						
総排水量削減	使用量(m <sup>3</sup> )	2020	98.0		95.0		90.0	
		2021	95.0		106.0		101.0	
		前年度比較	3.06%減		11.57%減少		12.22%増加	
二酸化炭素排出量総量	CO2 排出量(kg-CO2)	2020	21778.21	20146.78	18664.03	21186.03	17728.14	18792.99
		2021	20528.84	40546.43	61098.29	23379.83	41,660.93	21,297.98
		前年度比較	5.74%減少	101.3%増加	227.3%増加	10.35%増加	134.99%増加	13.32%増加

目標値に対しての運用期間の実績		実績年度	03月	04月	05月	06月	07月	08月	総合計	目標値
電気使用量削減(低圧)	売上による使用量 (kWh/売上:百万円)	2020	28.63	23.43	27.24	37.38	62.19	52.3	39.03	
		2021	48.94	26.57	51.03	32.21	39.42	36.74	40.97	
		前年度比較	70.9 増加	13.4%増加	87.33%増加	13.83%減少	36.61%減少	29.75%減少	4.96%増加	
電気使用量削減(高圧)	売上による使用量 (kWh/売上:百万円)	2020	38.19	35.52	44.11	46.89	69.45	54.85	47.26	
		2021	54.3	32.66	68.18	54.1	53.53	42.11	51.66	
		前年度比較	42.18%増加	8.05%減少	54.56%増加	15.37 増加	22.92%減少	23.22%減少	9.31%増加	
軽油使用料削減	売上による使用量 (ℓ/売上:百万円)	2020	120.22	105.22	108.98	143.1	193.39	128.96	124.35	166.4
		2021	130.54	82.99	127.29	120.81	111.9	87.19	121.81	
		前年度比較	8.58%増加	21.12%減少	16.8%増加	15.57%減少	42.13%減少	32.38%減少	2.04%減少	
ガソリン使用率削減	売上による使用量 (ℓ/売上:百万円)	2020	5.43	5.52	5.73	8.71	11.75	7.86	7.12	
		2021	7.04	4.4	12.45	9.23	7.03	5.46	7.86	
		前年度比較	29.65%増加	20.28%減少	117.27%増加	5.97%増加	40.17%減少	30.53%減少	10.39%増加	
リサイクル率	年間リサイクル率(%)	2020	86.54%							86.63%
		2021	85.90%							
		前年度比較	0.74%低下							
総排水量削減	使用量(m <sup>3</sup> )	2020	99		87		97		566	523.9
		2021	86		104		96		588	
		前年度比較	13.13 減少		19.54 増加		1.03 減少		3.88 増加	
二酸化炭素排出量 総量	CO2 排出量 (kg-CO2)	2020	24,857.60	21,520.23	18,385.72	19,972.80	21,034.22	19,652.58	243719.32	243062.4
		2021	21091.09	20023.23	13,498.19	17,374.91	16,511.35	18,423.53	230,979.48	
		前年度比較	15.15%減少	6.95%減少	26.58%減少	13.07%減少	21.5%減少	6.25%減少	5.22%減少	

## 2-4.運用評価



### 1-1)二酸化炭素排出量の削減(電気)

今年度より電気使用量を高圧電力と低圧電力の二つで分け細分化致しました。その為、従来の目標値が使えなくなりましたので今年度の数値を目標値とし来年度に取組みたいと思っております。

(本社)実績ベースでは3月の売り上げが伸び悩んだのと冷え込みが強く、暖房器具を継続使用していたためエネルギー使用原単位が上がってしまいました。ただ、電気使用量だけ見るとおおむね前年度と同じ状況である。引き続き継続して節電に取り組んでいく。

(センター)エアコンの変更もあり電気の使用量が減っている。昨年度の12月1月がやけに高かったのもあるが今年度は抑えられている為、引き続き熱中症等に気を付けながら節電に取り組んでいく

(高圧)おおむね従来通りである。破碎機の使用昨年度より多く稼働している。ピークシフトを活用し現状維持していく。

### 1-2)二酸化炭素排出量の削減(軽油)

エコドライブを引き続き推進している。27年度基準適合車を3台追加。

### 1-3)二酸化炭素排出量の削減(ガソリン)

エコドライブ等は引き続き推進して行っている。案件次第で走る量が異なるが従来通りの為現状維持を行う。

## 2).廃棄物リサイクル率の向上



※サーマルリサイクルは再資源化に含めておりません。

### 4).総排水量(水道使用量)の削減



現状維持を目標にする予定です。

来年度より破碎機に使用する散水ホースに計測器を設置し破碎機で使用する総水量を計測し、業務上使用する水量と生活用水の切り分けを行います。

### 5).環境配慮



昨年に引き続きグリーン購入を行う。グリーン購入ではないものに関してもなるべく環境に配慮したものを選定し購入を行っている。

- ・紙類            トイレットペーパー            古紙パルプ配合率 100% PEFC 認証品を使用
- ティッシュペーパー            PEFC 認証品を使用

- プリンター紙 FSC 認証品を使用
- 名刺 R100 再生紙使用(カーボンオフセット検討中)
- 文具類 マーカー類 グリーン購入法適合商品使用
- 画像機器類 プリンター Energystarprogram カートリッジ回収有
- 電子計算機 PC 関連 Energystarprogram
- 照明 蛍光灯 LED 蛍光灯を使用

2-4 次年度の環境経営目標と環境経営計画

4. 環境経営目標

No	環境方針項目	環境目標項目	基準値			CO2 換算係数	年度目標(対基準値)					
			2021年度				2022年度	2023年度	2024年度	2025年度		
1	 二酸化炭素 排出量の削減 	1) 電力使用量の削減 ※1	施設別	電力使用量(kWh)	総分量(t)	kWh	kg-CO2	基準値対 0.5%削減	基準値対 1.0%削減	基準値対 1.5%削減	基準値対 2.0%削減	
			本社	10678	-	10678	0.398	10625	10571	10518	10464	
			大井事業所	新設事務所の為、計測中								
			施設別	電力使用量(kWh)	総分量(t)	kWh/t	kg-CO2	基準値対 0.5%削減	基準値対 1.0%削減	基準値対 1.5%削減	基準値対 2.0%削減	
			センター	14088	5152.72	2.7340	0.462	2.7203	2.7067	2.6930	2.6793	
			センター(高圧)	31378		6.0896	0.411	6.0592	6.0287	5.9983	5.9617	
		2) 化石燃料消費量の削減 ※2	油種別消費量					kg-CO2	基準値対 1%削減	基準値対 2%削減	基準値対 3%削減	基準値対 4%削減
			灯油(ℓ/年)	443				2.49	439	434	430	425
			都市ガス(㎡/年)	379				2.16	375	371	368	364
			ガソリン(ℓ/年)	4640				2.32	4594	4547	4501	4454
			軽油(ℓ)	運搬距離(km)	ℓ/km		kg-CO2	基準値対 1%削減	基準値対 2%削減	基準値対 3%削減	基準値対 4%削減	
			75441.1	377233	19.9985		2.58	19.7986	19.5986	19.3986	19.1986	
計(kg-CO2)			230979.48			kg-CO2/年	基準値対 0.5%削減	基準値対 1.0%削減	基準値対 1.5%削減	基準値対 2.0%削減		
			kg-CO2/年			229762.71	228541.44	227326.48	226376.89			
2	 水使用量の削減	水使用量の削減	施設別	水道使用量(㎡)			kg-CO2	基準値対 0.5%削減	基準値対 1.0%削減	基準値対 1.5%削減	基準値対 2.0%削減	
			本社	73			72.635	72.27	71.905	71		
			大井事業所	新設事務所の為、暫定目標			70	69.3	68.95	68.6		
			センター	515(破砕機含む)			512	510	507	505		
			センター破砕機	※水道分離の為、次年度より計測			㎡/年	㎡/年以下	㎡/年以下	㎡/年以下	㎡/年以下	
3	 環境配慮	受託した産業廃棄物処分における環境への配慮	再資源化(リサイクル)率			%	基準値対 0.5%増加	基準値対 1.0%増加	基準値対 1.5%増加	基準値対 2.0%増加		
			85.20			85.63	86.05	86.48	86.90			

種別	2021年度(t)
中間処分量 ※1	5,152.72
収集運搬量 ※2	5,067.21

※1電気使用量(センター)の目標については、電気使用量(kWh)÷中間処分量にて算出しました。  
 ※2軽油使用量項目については、軽油基準値は、(ℓ÷走行距離)×100にて算出しました。  
 他、水道使用量分離や新事業所設置に伴い各次年度基準値の見直しを行います。  
 ※3リサイクル率の基準値を2021年度に設定し目標値を年/0.5増に変更しました。



### 3.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、起訴等の有無

当社に適用される、主な環境関連法規とその遵守状況の確認結果は以下の通りです。

環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局からの違反等の指摘はありません。

法律名	遵守事項	評価者	評価日(確認)	評価
自動車 NOx・PM 法	NOx/PM 基準不適車運航禁止(東京都)	社長	購入時常時	○
オフロード法	事業者の責務、規制対象車両の使用	センター長	購入時常時	○
資源有効利用促進法	使用済み物品等の再生資源・再生部品としての利用の促進	センター長	10/1	○
廃棄物処理法	<input type="checkbox"/> 産業廃棄物	—	—	
	処分業の許可の更新を5年前に受けていること(法14条)	社長	10/1	○
	産業廃棄物処理実績(前年度分)を毎年6月30日までに報告(細則14条3)	センター長	6/20	○
	帳簿の備付けと5年間保管	センター長	10/1	○
	産業廃棄物処理責任者及び技術管理者の設置	社長	10/1	○
	<input type="checkbox"/> 一般廃棄物	—	—	
	地区町村長による収集運搬業の許可	社長	更新時	○
	帳簿の備付けと5年間保存	センター長	10/1	○
	<input type="checkbox"/> マニフェスト	—	—	
	マニフェストの交付状況(前年度分)を毎年6月30日までに報告(規8条の27)	中村	6/20	○
	マニフェストの記録、保管等(保管期間5年間)	センター長	10/1	○
自動車リサイクル法	リース契約の為、三菱オートリース社等に返却	社長	適時	○
フロン排出抑制法	フロンがあるものは必ず抜く手配をし、抜いてから処理を行う	センター長	常時	○
労働衛生安全法	事業者の責務、安全衛生管理体制の措置、安全衛生教育、健康診断	社長	適時	○
東京都環境確保条例	環境への負荷の低減に関する、環境の保全に努める。	センター長	常時	○
廃棄物の減量及び適正処理に関する条例	廃棄物の発生を抑制し再利用を促進する等により、廃棄物の減量を図る。	センター長	常時	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理を行う	センター長	常時	○
協定	立入検査の実施	センター長	適時	○
	廃プラスチック埋立ゼロに関する協定	センター長	常時	○

### 4.代表者による全体評価と見直し

・依然コロナ禍の影響を受け続けながらも社員一丸となって本活動に取り組んで参りました。

結果として大幅な改善はなかったものの、最低でも現状維持を意識する「意識改革」は前進したかと思えます。

EA21は2年目ですが、以前より環境側面を考慮し取り組んできた結果も今回の数値に表れています。

二酸化炭素排出量の削減については高圧・低圧と細分化した分析を取り入れ高度な効果測定を可能としました。

使用量は前年度と大きく差がなく、今後もエコドライブ、作業環境に配慮しながら進めていきます。

燃料の使用量、廃棄物リサイクル率の向上、排水量(水道使用量)のコントロール、環境に配慮した製品の購入と使用、原則として現状維持以上を目標として意識してください。

皆様の日々の業務において本活動に効果的な発案や工夫を声にしていって下さい。

「循環型社会」「脱炭素社会」の実現の一助となるべく、発展していく責務があると考えております。資源リサイクルやエネルギー再利用をはじめ、私たちの事業がお客様や地域の皆様とともに、持続可能な社会に貢献できることを本活動から学びましょう。